

15 透析患者の痒みの実態調査より生活指導内容を見直す

佐久市立国保浅間総合病院 透析室 箕輪英俊、矢澤はつ江、谷原泰子

I はじめに

血液透析患者の痒みは頻度の高い合併症として知られており、慢性かつ全身性で、日常生活や睡眠にも支障を起し、透析患者を悩ませるものである。当院の透析患者からも痒みの訴えは多く、症状に応じて生活指導を行ってきた。しかし、「軟膏を塗ってみたけど効かない」「軟膏を毎日塗り続けるのは大変」等の声が聞かれ、また掻破を繰り返すことで皮膚症状が悪化してしまう患者もいた。この事から現在行っている生活指導では痒みの軽減にうまく結びついていないと感じた。そこで、痒みの実態を知るために調査を行い、痒みの早期改善を図るための生活指導内容の見直しを行った。

II 研究方法

調査対象は当院維持透析患者 39 名とし、「面接聞き取り調査」により回答を得た。有効回答数 38 名男性 24 名女性 14 名平均年齢 61 歳 (±14.0) 平均透析歴 4.69 年 (±3.6) であった。調査期間は 2004 年 7 月 (以下 夏季) と 2004 年 11 月 (以下 冬季) とした。調査内容は 夏季: 基本属性 (性別・年齢・透析歴) と痒みに関する 7 項目、生活習慣・生活環境に関する 7 項目、透析看護師から受けた説明に関する 3 項目。冬季: 痒みに関する 2 項目、日常生活に与える影響 1 項目。分析方法は各調査項目の単純集計を行い、項目間の関連について χ^2 検定を行った。痒みの評価は「痒みの重症度基準 (白取の原表)」(以下重症度基準) を用いた (表 1)

重症度基準 (表 1)

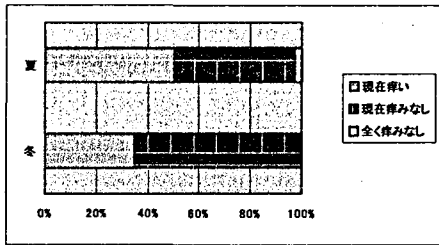
| 重症度 | 日中症状 | 夜間症状 |
|---------|---------------------------------|------------------------|
| 4 (激烈) | いてもたってもおられない痒み。掻いてもおさまらず、ますます痒い | 痒くてほとんど眠れず、しよっちゅう掻いている |
| 3 (中等度) | かなりかゆく人前でも掻く | 痒くて目がさめる |
| 2 (軽度) | ときに手がいき軽く掻く程度でおさまる | 痒くて目がさめることはない |
| 1 (軽微) | ときにむずむずする | 就寝時にわずかに痒い |
| 0 (なし) | まったく痒くない | まったくかゆみを感じない |

III 結果

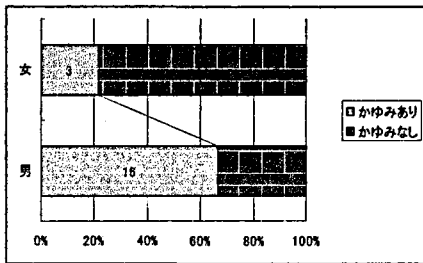
季節と痒みについて示す (図 1) 夏季では 50% に現在痒みがあり、47% に現在痒みは無かった。今までに痒みがまったく無いのは 3% であった。冬季では 35% に現在痒みがあり、65% に現在痒みは無かった。季節と痒みには有意差は認められなかった。

箕輪英俊 佐久市立国保浅間総合病院透析室
〒385-8558 佐久市岩村田 1862-1 0267-67-2295

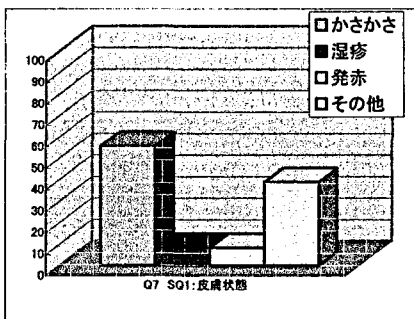
季節と痒みの関係 (図1)



痒みと性別について示す (図2) 男性 67%
女性 21%に痒みがあり、有意差が認められた
痒みと性別の関係 (図2)

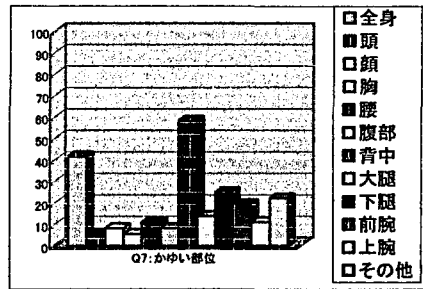


皮膚の状態について示す (図3) かさかさして
いる 55.6%と最も多く、湿疹 8.3% 発赤 8.3%
であった。
皮膚の状態 (図3)



痒みの部位について示す (図4) 背中 58.3%
胸 41.7% 前腕 19.4%であった

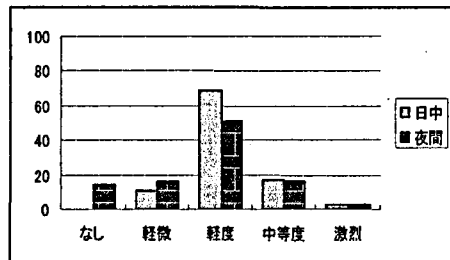
痒みの部位 (図4)



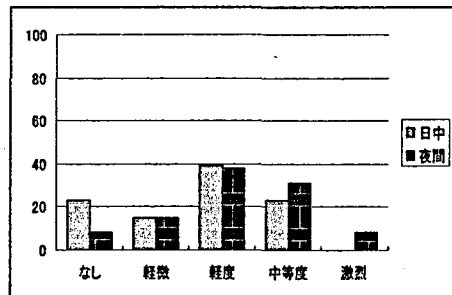
重症度を示す。

夏季 (図5) 日中症状軽度 69%夜間症状軽度
51%とそれぞれ最も多く、全体的に軽度の痒み
であることが判った。

痒みの重症度 夏季 (図5)

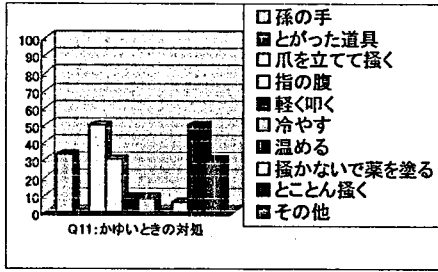


冬季 (図6) 日中症状軽度 38%夜間症状
軽度 38%次いで中等度 31%であった。全体的
に軽度から中等度の痒みであることが判った。
痒みの重症度 冬季 (図6)



痒いときの行動について示す (図7) 「爪で搔く」
が最も多く 34%次いで「指の腹で搔く」
24% 「孫の手で搔く」 22%であった。

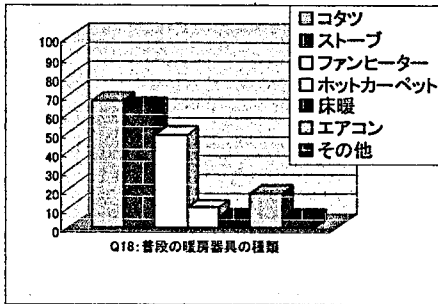
痒いときの行動 (図7)



生活習慣・生活環境について示す

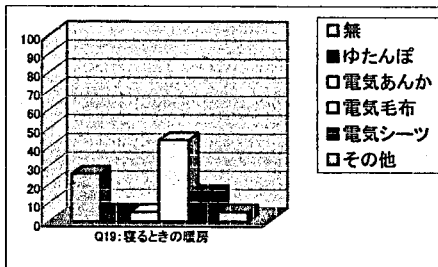
暖房器具 (図8) についてはコタツ 32% ストープ 29% ファンヒーター 23% であり、多くは複数の器具を併用していた。

暖房器具 (図8)



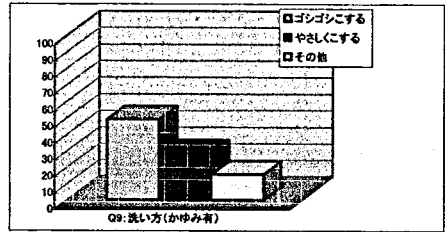
就寝時の暖房器具 (図9) は電気毛布 53% 電気シート 12% であった。

就寝時の暖房器具 (図9)

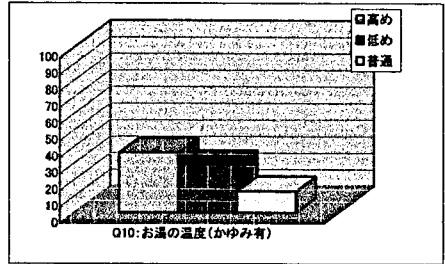


入浴方法について示す (図10~12) お湯の温度高め 35.9% 低め 28.2% 洗い方では、ごしごしこする 48.7% やさしくこする 28.2% であり、洗う素材はナイロン 46.2% 木綿 30.8% スポンジ 17.9% であった。

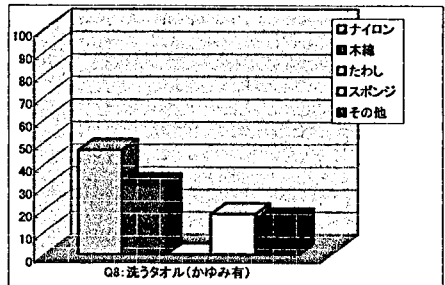
洗い方 (図10)



お湯の温度 (図11)



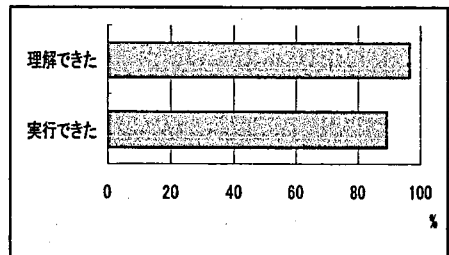
洗うタオル (図12)



透析看護師から受けた説明について示す

(図13) 説明が理解できた 96.4% 実行できた 89.2% であった。

透析看護師から受けた説明 (図13)



IV 考察

今回の調査より男女間で痒みの有無に有意差が認められたことは、一般に女性は日頃より肌に対し敏感であり、日常習慣としての皮膚ケアが出来るが、男性は痒みのあるときだけしか皮膚ケアをしないと思われ、男性も日常習慣として皮膚ケアが行えれば痒みの軽減につながると思う。段野氏は「透析掻痒症の原因はまだ十分には解明されていないが、皮膚の乾燥が痒みの大きな要因だ」と述べており本研究でも55.6%がかさかさしている状態であり、痒みの一因となっていると思われる。痒いときの対処法は「爪で掻く」が最も多く、今までの「爪で掻かないように」の指導では患者に受け入れてもらえないことが判った。今後は「掻かないように」だけではなく、傷を作らないような掻き方等を説明し、皮膚状態の悪化を防いでいきたい。患者の訴えに対しては「しばらく塗って下さい」「大変でも塗って下さい」の対応がほとんどであった。段野氏は「痒みの原因と悪化因子に対する患者の理解を高め治療意欲を向上させることが重要」と述べている。皮膚ケアの重要性と必要性を具体的に説明し、患者様も積極的に参加し、治療意欲を高めていけるようなアセスメントシートを作成し個々の患者に適した痒み軽減の援助を行っていききたい。

V 結論

今回の調査結果より以下の事が示唆された。

1. 当院透析患者97%が痒みを経験しており、夏季では男女間で有意な関係が見られた。
2. 皮膚状態はかさかさとした乾燥状態であり、軽度から中等度の痒みである
3. 痒いときは爪で掻いているが、皮膚状態を悪化させており傷を作らない指導が重要となる。
4. 患者が積極的に参加し痒みの早期軽減を図る

VI 引用・文献参考

- 1) 段野貴一郎：金芳堂 よくわかる透析患者のかゆみケア P3~P13 白取の痒み重症度基準 P11
- 2) 田口・服部：金芳堂 よくわかる透析患者のかゆみケア P23
- 3) 服部瑛：腎不全、透析患者のデルマドローム
- 4) 皮膚アレルギーフロンティア：メディカルレビュー社 2003.9V o 1.1No. 1
- 5) 石井京子・多尾清子：医学書院 第2版ナースのための質問紙の調査とデータ分析
- 6) 高島玉青・吉田秀美：日本看護協会出版会 ナースが知っておくべきかゆみのケア
- 7) 龍川雅治・白濱茂穂：南江堂 皮膚科エキスパートナーシング
- 8) 透析フロンティア：FUSO Vol.15No.1 2005 February/No64 透析患者の皮膚病変
- 9) 透析フロンティア：FUSO 1994 February/No13 掻痒症の対策